

平成21年度採択評価結果(平成21年9月)

[研究開発課題課題名] Javaバッチシステム開発自動化ツールの研究開発

[委託研究機関名] (株)キャナリーリサーチ

点数	合計 点数	所見
技術評価	39	<p>(技術)</p> <p>技術的に、革新の度合いは必ずしも高くはないが、低すぎるということもない。●●●●●●を先行事例として、そのJava化とインタフェースの洗練化が研究課題の概要と考えられるが、開発としての難易度は、それほどには高くはないと考えられる。バッチ処理に関する問題自体は、●●●●●●の開発によって解決されているはずであり、Javaへの展開部分についてのソフトウェア技術が開発の中心課題であり、その解決価値の絶対評価は行ないがたい。統合開発環境の設計対象として、Eclipseを利用することは妥当であり、実用性の観点からは、評価してよいと考えられる。このようなツールが多様に提供されることによって、情報処理業務が効率化されるという側面は認めてよいと考えられ、本課題はそのような解決の一部をになうという意味で、肯定的にとらえることができる。</p> <p>バッチシステム開発を自動化するシステム開発をJavaを用いて行うものであり、研究開発の内容は明確に記述されており、その趣旨は、実務を指向した研究開発となっていると考えられる。Javaの処理系を用いることで、移植性を高くし、ドキュメントも作成し易いシステムを実現できると予想される。今後予想されるJavaの普及を念頭に入れたシステム開発であり、応用範囲が広く、波及性もある。資金の使途は、開発の労務費だけとなっている。成果の開発困難性と複雑さの度合いの点から考えると、研究資金はやや大きいようにも思われるが許容できる範囲である。これまで同目的で開発し製品化した●●●●●●システムの開発経験もあり、総括的には、本提案の技術開発の内容は、妥当な範囲であると判断する。</p>
事業化評価	36	<p>フリーのツールが普及している中で、有料のツールがどこまで普及するかはそのツール自体の魅力のほか、大規模ベンダ等で導入の実績を作ることができるかによる。提案者の場合、●●●●と●●●●●●があるのでNICT投資分程度の回収の可能性はあるが、大きなシェアを獲得するのは自社による営業展開のみでは厳しく、さらなる連携等への取組みが期待される。</p> <p>Javaを利用したバッチシステム開発を自動化するツールを販売する計画である。本製品については、既存製品●●●●●●のJava版として●●●●と●●●●●●し、リリースする予定であり、●●●●とは本格的な製品スペックの検討、試作版評価の検討などについて●●●●●●を得ていることから、事業化計画の確度は高い。●●●●●●の売上実績と同程度である10年間累計で●億円程度の売上目標の達成により、委託費相当の売上納付が期待される。</p>

(注)総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。